



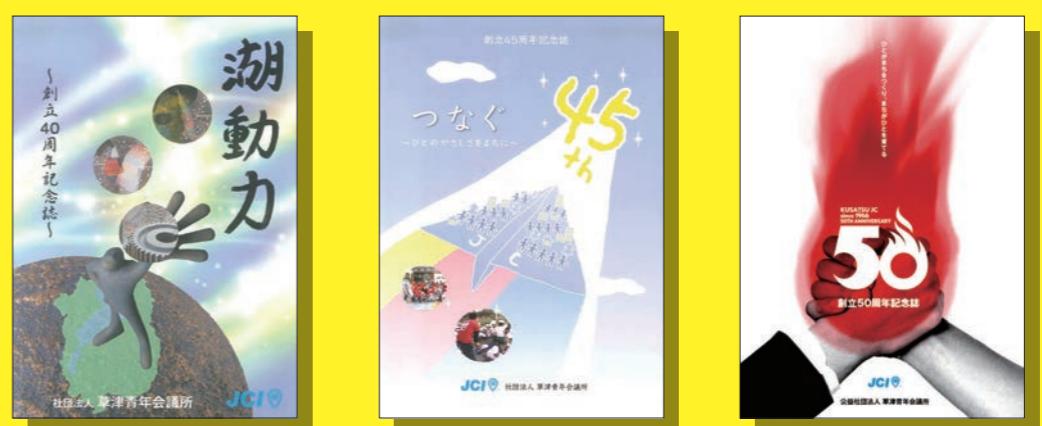
55周年ビジョン シン 住み良いまち草津

はじめに

公益社団法人草津青年会議所は創立55周年を迎えました。我々は40歳以下の青年経済人が集い、「明るい豊かな社会の実現」を目指して、その若い力で日々活動・運動に邁進し続けています。これまで多くのメンバーが40歳になり卒業する時には、その思いを残るメンバーが継承しながら、その歴史を重ねてきました。先輩諸氏が創り上げてこられた成果は、地域、行政、各種団体との深い絆となって今なお残り続けています。我々はその絆を更に広げながら、地域、行政、各種団体と協働して「明るい豊かな社会の実現」のため、活動・運動を行なっています。

我々の組織は創立55年の歴史の中で、現在のメンバー数が過去最も少ない人数となっており、減少した主な原因として二つ考えられます。一つ目は社会環境において、自営業者数がこの30年間で半減すると同時に、自営業者の大半が40歳以上であることです。二つ目は時代のニーズに合った組織で無くなってきたからだと考えています。一つ目の社会環境を変えることは非常に困難ですが、二つ目の時代のニーズに合った組織にすることは不可能ではありません。時代のニーズに合った組織とは、一言で言えば地域から必要とされる組織です。地域から必要とされる組織ということは、その組織が行なっている運動に魅力があるということです。これまで先輩諸氏が紡いでこられた歴史を継承し続けるためには、勇気をもって新しい扉を開き、明るい未来を創造していかねばなりません。

全国的な地方人口減少の最中わがまち草津は、大阪・京都で働く人々のベッドタウンとして、人口が増え続けた日本でも数少ないまちの一つです。草津駅前、南草津駅前にはマンションの建築が進み、まちの様相はこの30年間で大きく変わりました。そのマンションに住まう人々の多くは地域にコミュニティを持たない核家族です。そこには大きく分けて3つの課題が隠れています。



40周年ビジョン
湖動力～いま、この想いが未来を動かす！～

45周年ビジョン
つなぐ～ひとのやさしさをまちに～

50周年ビジョン
SO-AIプロジェクト
～ひとがまちをつくり、まちがひとを育てる～

地域にコミュニティを持たない核家族の3つの課題

1つ目の地域課題

わがまち草津には、他府県から移り住んだ故に、近くに両親がおらず、孤独に子育てをせざるを得ない母親がたくさんおられます。そんな母親の中には産後鬱を発症し、つい子どもに暴力を振るうケースも多々あるようです。そういうた孤独に子育てをせざるを得ない母親に対しては各種団体の皆様が救いの手を差し伸べています。しかし、父親に目を向けると少し様相が変わってきます。父親は自分の所属する会社にしかコミュニティを持っていない方がほとんどで、いざ週末に子どもと一緒に過ごすというシーンでは、大型ショッピングモールばかりに行くようです。その理由は、公園では走り回ってはいけない、ボール遊びもできないなど制限が多く、遊ぶ場所はお金を払って遊ぶレジャー施設くらいしか無いからです。この環境下では父と子の関係性、ひいては家族の絆を十分に育んでいけるとは思えません。そういうた父と子の絆を地域コミュニティの中で育んでいく運動が必要なのではないでしょうか。



Regional issues 01

親子の絆を

地域コミュニティの中で育んでいく運動の必要性

2つ目の地域課題

わがまち草津には、死別や離婚によってひとり親となった世帯が1000世帯以上おられます。ひとり親となった方が故郷には帰らず、草津にとどまって暮らされる理由としては、我が子を今の学校をはじめとした子どもコミュニティから引き剥がしたくないという親心と、故郷に帰っても仕事が無いといった切実な事情によることが多いようです。そんなひとり親世帯には、保育料や学費、給食費の減免など行政が関わっている部分には支援が行われていますが、学習塾や部活動などの行政が支援できない分野が存在しています。そういうたひとり親に生まれ育った子ども達への支援運動を地域コミュニティと連携して実施していく必要があるのではないかでしょうか。



Regional issues 02

ひとり親に生まれ育った 子ども達への支援運動を

地域コミュニティと連携して実施していく必要性

3つ目の地域課題

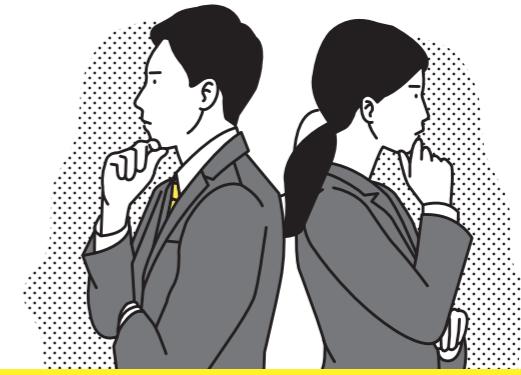
わがまち草津には、働きたくても働けない人たちがたくさんおられます。その多くは、子育て中の母親と、子育てが終わった母親です。子育て中の母親は、子どもが熱を出せば保育園に迎えにいかねばならない、子どもの食事を作らなくてはならない、学校の無い週末は子どもの面倒をみなくてはならないといった事情により、例え非正規雇用であっても働き口が少ない状況です。また、子育てを終えた母親は、過去に会社勤めをしていたとしても復帰は絶望的で、その年齢から正社員として雇用してもらえる会社はほとんど無いといっても過言ではありません。そういうた母親に対して、働き方の支援を地域コミュニティと連携して実施していく必要があるのではないかでしょうか。



Regional issues 03

母親に対して、 働き方の支援を

地域コミュニティと連携して実施していく必要性



55周年ビジョン 「シン 住み良いまち草津」

我々の組織が地域から必要とされるためには、先輩諸氏が残してくれた地域、行政、各種団体との「絆」を武器に、地域課題を解決していく事が重要です。これら地域課題の中核にあるのは、核家族に対する課題であり、これまで先輩諸氏が各種団体と共に課題解決のため取り組まれてきた歴史があります。その歴史を引き継いで、各種団体と共に地域課題解決のため運動を展開していかなければなりません。この運動こそが、組織の魅力を生み、多くの協働者を増やすとともに我々組織のメンバー数も増えていくと確信しています。我々、公益社団法人草津青年会議所は、下記3つの運動を展開します。



movement 01 パタニティ醸成運動

毎日付きっきりで子どもと一緒にいる母親は、相当な精神的苦痛を感じられているケースが多いです。また父親は仕事に追われ、子どもと過ごす時間が少ないことが、家族関係を悪化させてしまいます。そこで我々は、週末に休む父親が子どもと有意義に過ごせる場所を作るために、地域コミュニティと連携してその環境作りを行います。このパタニティ醸成運動によって、父と子の関係性が良くなり、ひいては地域コミュニティとの輪が広がっていきます。

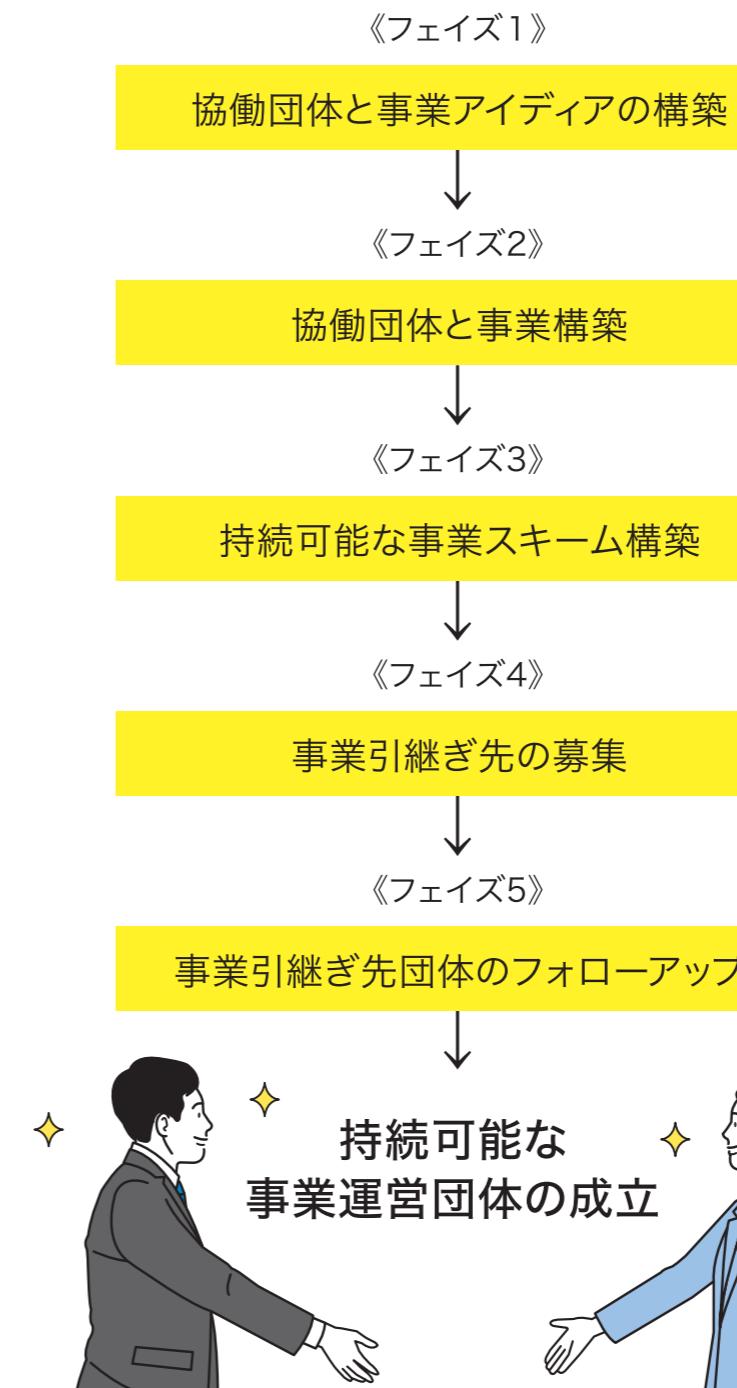
movement 02 ひとり親支援運動

草津市内には、所得が一定額未満のひとり親世帯に児童扶養手当が支給されており、その支給対象者は現在1000世帯を超えてます。すなわち、1000世帯は経済的に困窮していることを意味していると同時に、ひとり親自体が仕事で忙しく、子どもと一緒に過ごす時間が少ないケースがたくさんあります。また子どもが習い事などに行きたくても経済的、時間的理由により通えない子どももおられます。そこで、地域の事業者と連携して、ひとり親世帯に対しての支援運動を展開します。このひとり親支援運動を展開することによって、ひとり親世帯の親子の絆を深めるとともに、経済的支援に繋がっていきます。

movement 03 起業家支援運動

企業や役所といった雇用の網の目を抜けてしまった人々は、働きたくても働けない状況にあります。しかし、自営業であれば、働き方を自分自身で作ることができるため、そういう人たちには良い選択のひとつだと考えています。そういう方々が気軽に起業できるように、地域コミュニティと連携して起業家支援を行う運動を展開していきます。この起業家支援運動を展開することで、働けなかった人たちが、自分にあった働き方を獲得でき、地域の経済活性化にも繋がっていきます。

3つの運動 ロードマップ



最後に

我々公益社団法人草津青年会議所は、地域課題を解決する提唱団体として、これら3つの運動を地域、行政、各種団体と協働して展開し、地域に住む家族が抱える不幸を1世帯でも多く和らげていきます。そして、これら運動を5年間かけて行い、NPO法人等の立ち上げ、もしくは理念を同じくする各種団体が引き継ぎ、持続可能な運動を展開できるように事業構築していきます。これら運動が一人でも多くの父と子の関係性を良くし、一人でも多くのひとり親を支援し、一人でも多くの起業家を輩出することで、過去よりも少しでも明るい未来に繋がっていきます。この運動がもたらすものこそが、真実という意味での「真」、新しいという意味での「新」を込めて「シン 住み良いまち草津」となるでしょう。これら運動をメンバー全員が情熱を持って取り組むことで、メンバー自身が成長すると共に、地域から必要とされる組織となります。そして、魅力ある運動に共感してくれる同志が、我々の組織の未来の一員として活躍してくれることで、これまで先輩諸氏が紡いでこられた歴史を継承し続けることができると確信しています。